医学部脳神経内科学永山正雄教授が日本、アジアを代表して参加したハーバード大学医学部国際共同研究論文が「The Lancet Neurology」に掲載されました

― 急性脳・脊髄損傷後の長期的病態を解明し先進的医療体制を提言 ―

大学院医学研究科・医学部脳神経内科学の永山正雄教授が日本、アジアを代表して参加したハーバード大学医学部国際共同研究の成果をまとめた論文が、脳神経内科学分野最高峰の国際医学誌「The Lancet Neurology」（Impact Factor 54.6）に掲載されました。本論文は、筆頭責任著者である Mass General Brigham Neuroscience Institute 所属、ハーバード大学医学部脳神経内科学講座准教授 Saef IZZY 氏ら、マサチューセッツ総合病院およびブリガム・アンド・ウィメンズ病院の研究者を中心に、世界各国を代表する専門家がまとめた政策提言です。



The Lancet Neurology
2026年11月号（Vol. 25, Issue 11）表紙

外傷性脳・脊髄損傷の影響を受けている人は、世界で 2 億 2,000 万人を超えます。これらの損傷は、受傷後、数年から数十年にわたって、脳卒中、認知症、パーキンソン病をはじめとする諸種神経難病などの脳神経系疾患のみならず、心筋梗塞などの心血管疾患、糖尿病、内分泌障害、精神疾患など、さまざまな全身の障害が続発してくることをこの国際共同研究は明らかにしました。

一方、たとえ先進国であっても急性期の治療や直後のリハビリテーションのみが中心で、長期的な評価、治療や支援につながっていない現状に鑑み、本論文では夥しい数の外傷性脳・脊髄損傷患者について、急性期の治療や直後のリハビリテーションにとどまらず、長期的な健康管理を必要とする病態として捉え直すべきことを提言しています。具体的には血管・代謝、内分泌、認知機能、メンタルヘルスなどの定期的評価と早期治療介入、退院後の医療と生活支援をつなぐ「ケアナビゲーター」の配置、遠隔医療の活用などを組み合わせ、患者の状態やリスクに応じて継続的に支援する医療体制構築が国際的な喫緊の課題であることを提言しています。

この研究成果と提言は、WHO（世界保健機関）の提言に基づく世界的最優先課題 Brain Health（脳の健康）政策の一環として行われているものでもあります（2026 年 7 月 17 日永山正雄教授関連ニュースをご参照ください）

https://www.iuhw.ac.jp/news-info/2026/2607171614.html

論文情報

論文名	Reframing traumatic brain injury and spinal cord injury as chronic multisystem disorders: toward integrated, long-term care
掲載誌	The Lancet Neurology, Vol. 25, Issue 11, November 2026, pp. 1025–1038
論文種別	Policy View（政策提言）
論文（DOI リンク）	https://doi.org/10.1016/S1474-4422(26)00297-8
Mass General Brigham の紹介記事	Research Spotlight: Working towards an integrated, long-term approach for traumatic brain and spinal cord injury（英語）